

P116

●吉田直人¹・志村華子¹・山下一夫²・田渕収一³・志賀義彦⁴・鈴木正彦¹・増田税¹

ニンニクからの効率的なウイルス検出法の確立

Yoshida, N., Shimura, H., Yamashita, K., Tabuchi, S., Shiga, Y., Suzuki, M., Masuta, C.:
Development of an Efficient Method for Viral Detection from Garlics

国内外の様々なニンニクにおけるリークイエローストライプウイルス (LYSV), タマネギ萎縮ウイルス (OYDV), *Allexivirus* の Tissue print 法および RT-PCR 法を用いた検出を検討した。Tissue print 法では鱗片や根よりも水耕栽培後に伸長してくる葉鞘を用いた方が明瞭な結果が得られた。Tissue print 法と RT-PCR 法とではほぼ同一の結果が得られ、供試したすべてのニンニクから 1 種類以上のウイルスが検出された。*Allexivirus* では 1 個体に 3 種類の混合感染が確認された。またニンニクの部位別にウイルス検出を行ったところ、いずれのウイルスも鱗片、根、葉鞘でウイルス感染に違いはみられなかった。葉における病徴観察では、LYSV の単独感染個体よりも LYSV と OYDV の混合感染個体の場合に病徴が厳しくなることがわかった。一方、LYSV と *Allexivirus* の混合感染個体では病徴の変化は確認されなかった。北海道では LYSV 単独感染が顕著だった。

(¹ 北大院農・² 青森産技セン・³ 常呂町農協・⁴ (財) 北海道農業企業化研)